

第 11 回葉山町子ども・子育て会議 議事要旨

- 1 開催日時
平成 27 年 3 月 6 日（金）10 時～12 時 30 分
- 2 開催場所
葉山町役場 3 階 協議会室 2
- 3 開催形態
公開（傍聴者 2 名）
- 4 出席者
委員 12 名出席（定足数 ）。
欠席 8 名（角井委員、溝端委員、野北委員、森田委員、倉上委員、滝澤委員、鈴木委員、加藤委員）。
- 5 議事（事務局メモ）
 - （1）開会
（事務局）
 - ・ 山梨町長あいさつ。
 - ・ 新委員（竇川委員）の紹介。
 - ・ 傍聴について確認。
 - ・ 資料の確認。
 - ・ 会長不在のため、進行を副会長に依頼。
 - （2）前回の確認
（事務局）
 - ・ 平成 27 年度当初予算案の概要について説明。会議で検討した学童クラブの補助金や学校施設の改修の予算が計上されていることを報告。
 - ・ 新制度の 1～3 号認定の利用者負担額について、現在開会中の議会で条例案を審議していることを説明。基本的に会議で検討したとおりの額になっているが、国の幼児教育無償化の取組みの関係で、一部の額を修正していることを報告。
 - （3）議題
子ども・子育て支援新制度一般向け勉強会について
（事務局）

- ・ 前回会議後に自主打合せを行い、一般向け勉強会当日の準備について確認したことを報告。
- ・ 勉強会の実施結果について報告。参加者の数は少なかったが、満足度は高かったようである。委員にも何人か参加していただいた。
- ・ アンケート結果では、「広報はやま」「町内回覧」「チラシ」を見て勉強会を知ったという人が多かった。
- ・ 引続き開催を希望する声もあり、次年度も継続するか検討している。実施の際は、今回の反省をふまえて、いくつか改善すべき点もある。

(委員)

一般の人と同様に参加したが、気づきの機会が得られてためになった。

参加した人の数が少なかったのは残念に思っている。今回は未就学児の保護者に対象を限定したが、親にとっては一番動きにくい時期だったと思う。また、16時終了は夕方で遅い感じがしたかもしれない。こうした点は改善の必要がある。

せっかくこうしたことを始めたのだから、参加者が少ないからとあきらめるのではなく、地道にやっていくとよいと思う。短いスパンでなくてもいいので、定期的に続けてほしい。

今回は会議主催で勉強会を実施した。当面は続けた方がよいとのことだが、今後は会議と町とどちらが主体になるべきか。今回は町の方でかなり準備を担当していた。

テーマが固かったが、参加してみたら進行も配慮されており内容的によかったと思う。細々と続けていくとよい、というのは同感である。

行政がやると固くなりがちだし、相談に行くのもハードルが高いという声を聞く。気軽に集える機会にするという観点では、NPOなど民間と協働で進めていくとよいのではないか。

参加してみたが、自分にとっても、つながりができて情報が得られたことがよかった。つながりが大切ということがみんなで共有できて、ここからスタートなのかと思う。どこがやるというのは難しいが、続けていった方がよいと思う。

勉強会に参加して、自分が持ち得る情報をつなぎ合わせると、情報の内容が濃くなるということを実感できた。そうした情報交換を通じて、横のつながりに発展していく可能性が感じられた。

前回7月の際は参加者は多かったが、意見交換する時間が少なかった。今回は工夫をして勉強会の内容としては濃くなったと思う。2時間あればいろいろできることも確認できた。少しずつこうした輪が広がっていけばよいと思う。

ただ、チラシをこれだけ配っているのに当事者が来てくれないという

ことは重く受け止めなければならない。当事者の困り感をどう吸い上げるかは今後の課題だと思う。

参加者の男女比はわかるか？

男女別で集計していないので、後で確認する。男性も参加していたが、印象としては女性の方が多い。

(副会長)

一般向けのイベントは次年度も継続することとし、具体的な内容はあらためて検討するということでよいか？

了承。

子ども・子育て支援事業計画の策定について

- ・ 事務局で計画案の修正の検討を行っている。
- ・ 委員からの意見のほか、県からもいくつか指摘事項があり、そちらもあわせて修正を行っている。
- ・ 今回は前回ご意見が多かった「計画の基本的な考え方」を中心に議論したい。
- ・ 3月中旬には原稿を確定し、その後印刷になる。

(委員)

一時預かりとか病児・病後児保育とかいろいろな事業があるが、これらがすべて行われれば、すばらしい町になると思う。ただ、現状では、一時預かりはキャンセル待ちだし、町内にはいざというときの病児の受け入れ先もない。子育て支援センターでは、こうした相談の対応に日々頭を悩ませている。理想を目標に掲げた後も、町の人と現場の人で情報共有して、常に課題を対応することが必要だと思う。その瞬間に有効な手立てを進めていけるようにしたいが、なかなか難しい。

計画は計画として出さざるをえないが、それと別に制度をうまく利用することを考えていくことも大事。

保育園に入っているお子さんとそうでないお子さんでの家庭の子育て力の落差が大きい。それを埋めていくのに何をすればよいのか日々悩んでいる。お金でやるには難しいことが多い。やはり人手が課題になる。日曜日に何かやるなら保育園を開放してもよい。町内のいろいろな資源を活用しなければならない。

目に見えるように動いていくことが大事だと思う。

また、新しい保育園について、周りが反対しているのでこわいから行きたくないという声を聞いた。保育園が足りていなくて、やっと新しくできて、みんな行くと思っていたのに意外だった。何かするにしても形にするだけで安心しないほしい。

先日の勉強会で、葉山はいろいろそろっていて、施設もある程度整っているという意見があった。施設については、ほかにも横須賀や逗子に立派なところがある。新しいものをつくるのにお金を出すのは現実的ではないので、他市のものも補助金を出して安く使えるようにしてほしい。また、先ほど日曜日に保育園を開放できる話があった。この会議で情報を集約し、行政でなくても他にいろいろできることを考えていきたい。

葉山の子ども・子育て会議は、他の自治体に比べて、みんなで作り上げている感じがある。計画の進行管理の部分は、数値目標を達成したとか数字だけで評価するのではなく、是非、現場の声などいろいろな要素をふまえて評価するようにしてほしい。

(副会長)

できるだけ意見を反映していただき、対応は事務局一任でよいか？
了承。

今後の放課後の居場所づくりについて

(事務局)

- ・ 学童クラブについては、児童館との分離を基本として、民間団体による運営を進めていく。町直営の学童クラブは将来的に廃止の方向で検討しているが、保護者のニーズをしっかりと見極めて判断する。
- ・ 放課後子ども教室については、どのような内容で進めるか手がかりをつかめていない状況である。町内の社会資源をふまえて、どこでやるか、誰ができるのかを考えていく必要がある。引続き、次年度に具体的な検討を行う。

(委員)

公共施設の再編によって、使えるところが出てくるのか？

いろいろな施設を持ち続けると自治体がつぶれてしまうということで、国から全国的に公共施設の見直しを求められている。葉山町でもこれから施設の再編について検討を行っていくところである。再編によって学童などに使える場所が出てくるかもしれないので、そうした時期を逃さないように具体的な内容を詰めておきたい。

葉山町では 20 年前から学校施設の開放を進めてきた。ただ、これまでは一色小なら新館、葉山小なら第二音楽室など、本校舎でないところを開放してきた。また、町内に施設がないので、体育館やグラウンドも土日開放をしている。

学童クラブの内容と場所について議論していく必要がある。

3月の後半から、長柄会館で学童を始める。家を空けている親には子どもの宿題が悩みで、そうしたことがフォローできる学童にしたいと思

っている。おやつを出す、宿題をするなど学童の内容をある程度標準化することは必要だと思う。

また、一般のお子さんとの区別も課題になる。御陵神社で遊んでいる子がいて、そうした子の面倒もみてほしいと言われる。人情としてはわかるが、責任をもった安全管理はできない。学童に入らない子とどう過ごすか検討の必要があると感じている。

実施場所について、学校との調整は進んでいるのか？周りの自治体ではいろいろ進んでいるが、学校施設を開放できない理由があるのか？

来年度、一色小学校に学童クラブを入れる調整をした。一色小学校については新館をこれまで保育施設として使っていた経緯もあり、この機会に学童クラブも入ることができた。今の時点では、他の小学校に余裕教室はないと聞いている。

風の子保育園で学童クラブを始めて9年になる。これまで補助金なしで自力で運営してきた。来年度から補助金が出るが、その反面、面積や人員の問題が出てきている。また、これまでは仕事をしていない人も利用していたので、その調整も必要になる。

学童を学校に入れる検討をしているが、学童に関して葉山として何を大事にしていくかを統一していくことが必要だと思う。以前に6年間学童を利用した子が「学校は緊張する場所だから、学校で学童をやるのであれば行かなかったと思う」と話していた。社会の流れもあるが、そうした意見もある。子どもにとって何がよいのかを考えて、よりよい学童ができればよいと思う。

学校の敷地を学童クラブで利用できるメリットは大きいと思う。できれば逗子のようにプレハブをたてるのが理想で、そうすれば子どもたちの気分も変わると思う。

また、児童館は一度家に帰ってからでないと遊びに行けない。そのまま学校から行けるようにするなど、児童館をうまく使いながら学童を軌道にのせていくとよいと思う。

- 1 その他（町長への報告事項について）

（事務局）

- ・ 年度末にこれまでの検討経過を町長へ報告するが、前回お示しした構成案をベースに事務局で内容骨子をまとめている。
- ・ 内容に特段問題がなければ、この後、事務局で最終案を作成し、委員に確認していただいた上で、3月中に町長へ提出する。

（委員）

保育ママというのは一般的な呼び方なのか。男女参画の観点から問題

ないか確認したい。

他の自治体で保育ママという名称で広く実施されている。

(副会長)

事務局案で問題ないか？

了承。

- 2 その他（会議構成員の一部変更について）

(事務局)

- ・ 委員選出区分について、次回から公立保育所を児童館へ変更する。
- ・ また、幼稚園保護者代表は次回まで継続とし、その後いったん廃止とする。代わりに新設保育園に委員として加わっていただく。
- ・ なお、保護者代表枠については、これまでどおり要件を満たす時期まで続け、その後、別の人に交代という対応とする。継続的に続けられる人の選任は、次期3年間の際に検討する。

(副会長)

委員選出区分の変更については問題ないか？

了承。

- 3 その他（会長の選任について）

(事務局)

- ・ これまで会長不在が続いていたが、次回から竇川委員に会長をお願いしたいと考えている。

(副会長)

異論ないか？

了承。

会長あいさつ。

(4) 閉会

(事務局)

- ・ 次回は5～6月に予定しており、あらためて日程調整を行う。
- ・ 今回が最後になる委員の紹介。

(委員)

いろいろ行事とぶつかって、なかなか会議に出席できず申し訳ない。放課後事業の検討状況はこちらも注目していた。学校としてもできることは検討したいと思う。次回、新しい人が委員になると思うが、開催期日の候補日をもう少しいただくと、出席できると思う。

(以上)